

I 第38週の発生動向 (2015/9/14~9/20)

1. 手足口病については、五所川原保健所管内で**警報**が解除されましたが、それ以外の保健所管内では**警報**が継続しています。
2. 伝染性紅斑については、むつ保健所管内で**警報**が発令されました。
3. RSウイルス感染症については、患者報告数が前週の18人から41人に増加しました。今後の発生動向に注意が必要です。

II 第38週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、**警報・注意報**については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東青 (東地方保健所・青森市保健所)		中南 (弘前保健所)		三八 (八戸保健所)		西北 (五所川原保健所)		上北 (上十三保健所)		下北 (むつ保健所)		青森県計		前週からの増減
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
	小児科 内科														
インフルエンザ															-1
RSウイルス感染症	6	0.75	6	0.67	20	2.00	4	0.80	5	0.83			41	0.98	23
咽頭結膜熱											2	0.50	2	0.05	-7
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	0.63	7	0.78	46	4.60			3	0.50	1	0.25	62	1.48	12
感染性胃腸炎	8	1.00	10	1.11	10	1.00	8	1.60	12	2.00	7	1.75	55	1.31	2
水痘	2	0.25	1	0.11	1	0.10			2	0.33	1	0.25	7	0.17	-4
手足口病	38	4.75	62	6.89	43	4.30	7	1.40	60	10.00	53	13.25	263	6.26	-44
伝染性紅斑			1	0.11	1	0.10			1	0.17	8	2.00	11	0.26	7
突発性発しん	4	0.50	2	0.22	3	0.30			3	0.50	2	0.50	14	0.33	-4
百日咳															-1
ヘルパンギーナ	22	2.75	14	1.56	3	0.30	2	0.40	2	0.33	6	1.50	49	1.17	1
流行性耳下腺炎	8	1.00	1	0.11	1	0.10			1	0.17			11	0.26	8
眼科															
急性出血性結膜炎															0
流行性角結膜炎	1	0.50							1	0.50			2	0.18	-1
基幹															
クラミジア肺炎															0
細菌性髄膜炎															-1
マイコプラズマ肺炎					1	1.00					4	4.00	5	0.83	0
無菌性髄膜炎															0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)															-1

は警報、は注意報。「空欄」:患者発生無し。

III 全数把握疾患(掲載数は最新情報)

- ・結核(二類全数把握疾患):弘前1人、五所川原1人、上十三1人(2015年計:219人)
- ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(五類全数把握疾患):東地方+青森市2人(2015年計:16人)

IV 病原体検出情報 ※()内は、検査材料及び検体採取日です。

- ・上気道炎患者(気管吸引液、8/11)・・・ヒトライノウイルスA:八戸1人
- ・下気道炎患者(気管吸引液、8/23)・・・ヒトライノウイルスA:八戸1人

感染症の窓

RSウイルス感染症(五類定点把握疾患)

RSウイルス(respiratory syncytial virus:RSV)感染症は、RSVの感染による呼吸器感染症です。乳児期の発症が多く、何度も感染と発病を繰り返しますが、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児がRSVに少なくとも1度は感染するとされています。

通常4日~5日の潜伏期間の後、初感染の乳幼児では上気道症状(鼻汁、咳)から始まり、その後下気道症状が出現します。38~39℃の発熱や、25~40%の乳幼児に気管支炎や肺炎の兆候がみられます。

RSV感染症は例年冬季に報告数のピークが見られ、夏季は報告数が少ない状態が続いていましたが、2011年以降、7月頃から報告数の増加傾向がみられています。今年の全国における定点当たり報告数は1月のピークから5月初め(第18週)にかけて減少を続け、7月初め(第27週)まで少ない報告数で推移していました。その後徐々に増加傾向を示し、第37週に0.84人/定点となっています。青森県においても第29週から全国と同様に増加傾向で、第38週に0.98人/定点となっており、今後の発生動向に注意が必要です。

RSV感染症の感染経路は飛沫感染と接触感染です。発症の中心が0歳児及び1歳児のため、予防対策は日常的に乳幼児に接する人はマスクを着用して接すること、子どもたちが触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤で消毒すること、流水・石けんによる手洗いの励行です。

厚生労働省のホームページではQ&Aを掲載しています。http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html
【参考】厚生労働省 HP

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2015年第28週～2015年第38週）

週	期間	東青 (東地方保健所・ 青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (八戸保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
28	H27.7.6 ~ H27.7.12	腸管出血性大腸菌 感染症7人	腸管出血性大腸菌 感染症1人	腸管出血性大腸菌 感染症1人			
29	H27.7.13 ~ H27.7.19		アメーバ赤痢1人	カルバペネム耐性腸内 細菌科細菌感染症1人			腸管出血性大腸菌 感染症1人
30	H27.7.20 ~ H27.7.26			カルバペネム耐性腸内 細菌科細菌感染症1人 侵襲性肺炎球菌感 染症1人 梅毒1人			
31	H27.7.27 ~ H27.8.2		急性脳炎1人		破傷風1人		
32	H27.8.3 ~ H27.8.9	腸管出血性大腸菌 感染症1人		カルバペネム耐性腸内 細菌科細菌感染症1人		腸管出血性大腸菌 感染症4人	
33	H27.8.10 ~ H27.8.16	レジオネラ症1人		腸管出血性大腸菌 感染症1人		腸管出血性大腸菌 感染症1人	
34	H27.8.17 ~ H27.8.23	アメーバ赤痢1人		水痘(入院例)1人	レジオネラ症1人		
35	H27.8.24 ~ H27.8.30	腸管出血性大腸菌 感染症2人 劇症型溶血性レンサ 球菌感染症1人	侵襲性肺炎球菌感 染症1人	カルバペネム耐性腸内 細菌科細菌感染症1人			
36	H27.8.31 ~ H27.9.6	アメーバ赤痢1人 カルバペネム耐性腸内 細菌科細菌感染症1人		アメーバ赤痢1人			
37	H27.9.7 ~ H27.9.13	腸管出血性大腸菌 感染症1人 カルバペネム耐性腸内 細菌科細菌感染症1人 劇症型溶血性レンサ 球菌感染症1人					
38	H27.9.14 ~ H27.9.20	カルバペネム耐性腸内 細菌科細菌感染症2人					

VI 結核(二類全数把握疾患) (2015年第28週～2015年第38週)

単位：人

週	期間	東青 (東地方保健所・ 青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (八戸保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
28	H27.7.6 ~ H27.7.12	1		1			
29	H27.7.13 ~ H27.7.19	2		1	1	2	
30	H27.7.20 ~ H27.7.26		1	2			
31	H27.7.27 ~ H27.8.2	2	1			1	1
32	H27.8.3 ~ H27.8.9	1	2	3		1	
33	H27.8.10 ~ H27.8.16	1	1				1
34	H27.8.17 ~ H27.8.23	3	1	1	1	1	
35	H27.8.24 ~ H27.8.30	1		3		2	
36	H27.8.31 ~ H27.9.6	3	1	1		1	
37	H27.9.7 ~ H27.9.13	2	3	2		1	
38	H27.9.14 ~ H27.9.20		1		1	1	

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国

(2015年第1週～第36週累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	回腸熱	コクシジオテラ症	重症熱性血小板減少症候群	チクンゴニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症	マラリア	野兔病	ライム病	類鼻疽	
累積報告数	16514	3	107	2610	22	24	134	178	9	5	3	2	44	13	79	190	111	4	30	2	7	1	
分類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	播種性クブコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
累積報告数	1020	9	774	170	1051	352	10	121	302	965	51	170	24	1592	213	1646	80	79	43	127	28	23	

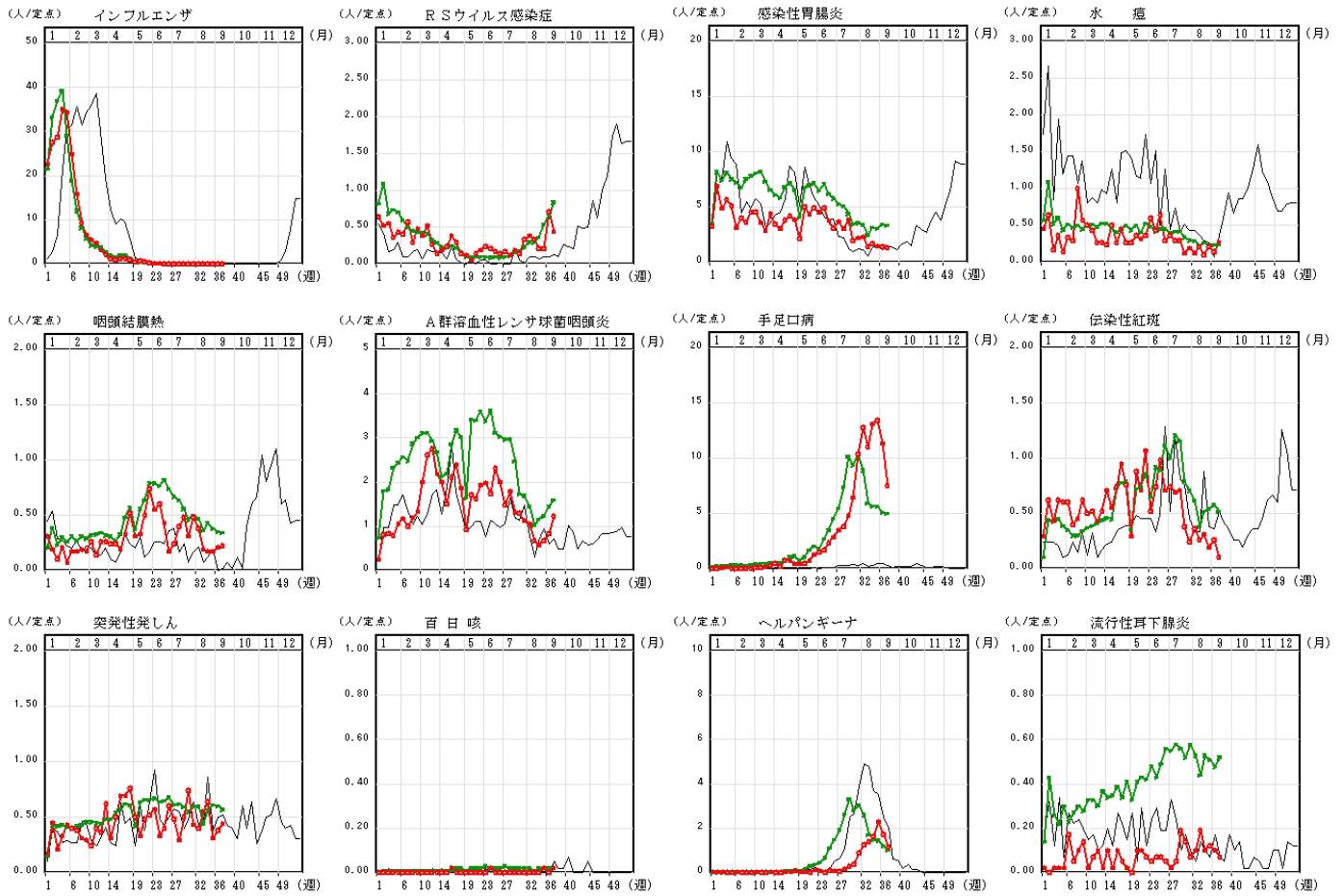
青森県

(2015年第1週～第38週累計)

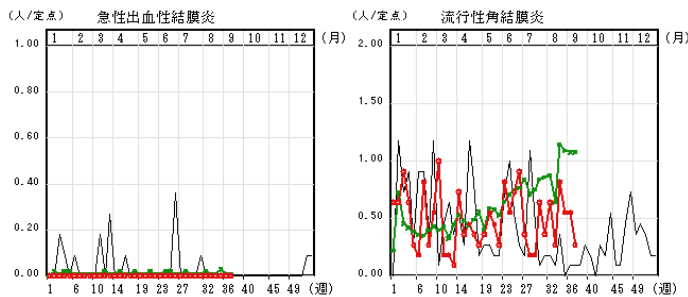
分類	二類	三類	三類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	細菌性赤痢	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	破傷風				
累積報告数	219	44	1	8	2	9	1	16	2	1	2	2	2	14	3	5	1				

Ⅷ インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2015年第37週)

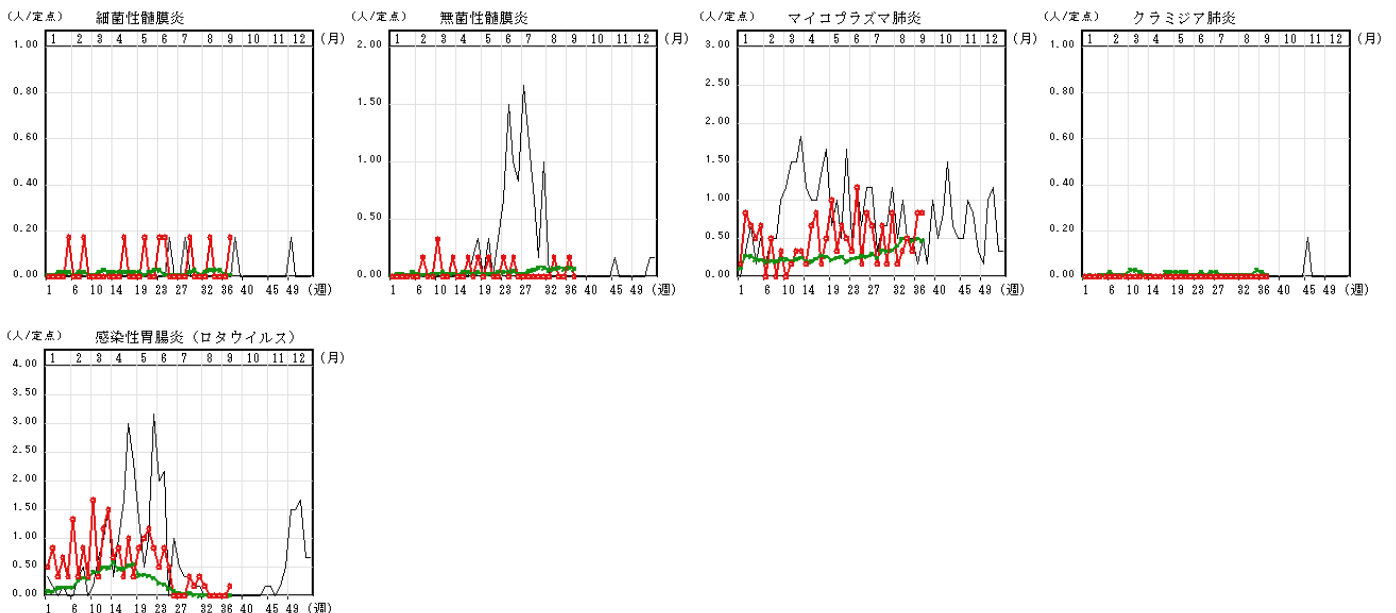
グラフの説明 ○—○は2015年青森県、——は2014年青森県、×—×は2015年全国



Ⅸ 眼科定点把握疾患週別推移 (2015年第37週)



Ⅹ 基幹定点把握疾患週別推移 (2015年第37週)



XI 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成17年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

第38週は報告がありませんでした。

平成27年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月			計 (施設別)
		1-4週	5-8週	9-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-30週	31-35週	36週	37週	38週	
介護・老人福祉関係施設	件数	7	5	1	0	2	0	0	0	0	0	0	15
	発症者数	107	94	47	0	27	0	0	0	0	0	0	275
児童・婦人関係施設等	件数	3	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	7
	発症者数	61	0	5	19	0	14	28	0	0	0	0	127
障害関係施設	件数	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	発症者数	0	0	10	0	0	16	0	0	0	0	0	26
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計(月別)	件数	10	5	3	1	2	2	1	0	0	0	0	24
	発症者数	168	94	62	19	27	30	28	0	0	0	0	428